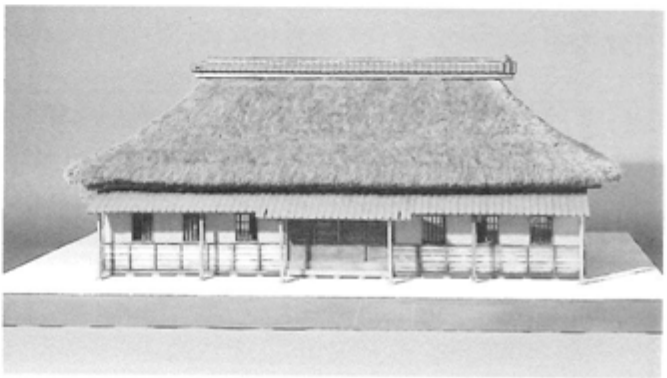
2013年11月30日

資料館通信 第66号

ふじみ野市立　上福岡歴史民俗資料館　埼玉県ふじみ野市長宮１－２－11　TEL 049－261－6065
大井郷土資料館　埼玉県ふじみ野市大井中央２－19－５　TEL 049－263－3111

上福岡歴史民俗資料館は、開館30周年を迎えました

開館30周年記念（第26回）特別展
「子どもの学び－寺子屋から戦後の学校まで－」
会期　10月26日（土）～12月22日（日）



開館当初からのシンボル展示である
「三福学校」校舎模型

上福岡歴史民俗資料館開館30周年に寄せて

“郷土を見つめ　郷土を育む歴史民俗資料館”をスローガンに1983（昭和58）年11月３日に開館した上福岡歴史民俗資料館、今年、節目の30年の歴史を刻むことができました。この間に賜りましたご協力と関係者の皆さまに深く感謝するものです。

この館は全国的にも歴史民俗資料館建設の「はしり」の時期に建設され、昨年度までの入館者数は192,383人を数えます。開館３年目の昭和61年には、年間入館者が１万４千人を超えましたが、その後の入館者は年平均４～５千人台で推移してきています。昭和61年というのは、県内の博物館・資料館施設として初めて設立の歴史をもつ「資料館友の会」が発足した年でした。現在でも学習者であり、資料館に活力を提供してくれている友の会です。

常設展示室だけでなく、学芸員が腕をふるう特別展としてテーマをもうけた地域研究は、館の売りでもあります。特別展を開催できなかった年は、館としての元気も、入館者数も失ったものです。

30年目を迎えて施設の老朽化も目視できるようになってはきていますが、引き続き郷土を見つめ、郷土を育む資料館としての存在をさらに高め、来館者には満足のいく展示、事業の展開を、友の会には活躍の場を提供しながら、今後とも地域に愛される資料館をめざし職員全員で努力してまいります。

（上福岡歴史民俗資料館長　坪田幹男）

『学校日誌』から見た「学校」のうつりかわり

上福岡歴史民俗資料館では、福岡尋常小学校（市立福岡小学校の前身）が作成した明治26（1893）年の日誌をはじめ昭和20年代までの日誌を収蔵し、学校の歴史を知るための研究資料にしています。

この中からほんのわずかですが、学校の変遷とあわせて当時の様子を伝える記事を紹介します。

1、明治27（1894）年８月11～12日　福岡尋常小学校日誌

明治11(1878)年開校の三福学校は、明治22(1889)年の「福岡村」誕生で「福岡尋常小学校」になりました。明治27年８月の在籍児童数は161人（明治40年まで修業年数は４年）ですが、大雨や雪などの悪天候の時は欠席する児童も多く、大風雨だった11日は出席54人・欠席107人でした。翌12日は日曜日なので本来は「休業」ですが、児童の要望で15日と振り替えたという内容が記されています。

ちなみに、この年の夏休みは６月１日～20日（農繁期を考慮したためか）で、お盆の８月14・15日は休業でした。

明治27（1894）年８月11・12日の記事

2、昭和３(1928)年６月26日　福岡尋常高等小学校日誌

大正６（1917）年に高等科を設置し、校名が変わりました。昭和３年６月の在籍児童数は尋常科（１～６年）387人、高等科（１・２年）65人でした。

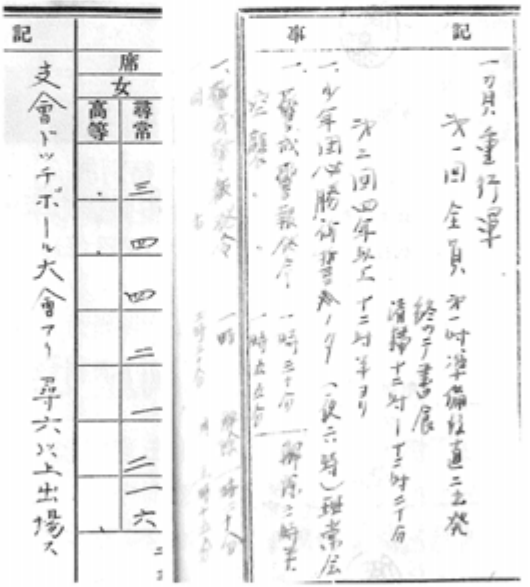
この日の日誌で初めて「ドッジボール」が登場し、鶴瀬支会（近隣の村との連合組織）の大会に尋常科６年以上が出場しています。ドッジボールは明治40年代に日本に紹介されたスポーツですが、今でも学校で盛んに行われています。他の年度の日誌には「避球」の表記もありました。

3、昭和19(1944)年１月９日　福岡国民学校日誌

昭和16（1941）年公布の国民学校令で、「国民の基礎的錬成」を目的とした「国民学校」となり、内容も軍事的傾向が強くなりました。この時の在籍児童数は初等科（１～６年）686人・高等科（１・２年）180人です。

授業時間に道路清掃や農家の手伝いなどの勤労奉仕、食糧増産のための農作業、神社参拝などが行われ、遠足・運動会などの行事も「鍛練」を意識し、１月９日は「負重行軍（重い荷物を背負って長距離を歩く訓練）」を実施しています。

昭和17年ころから警戒・空襲警報がたびたび発令され、授業を早く切り上げる日もありました。

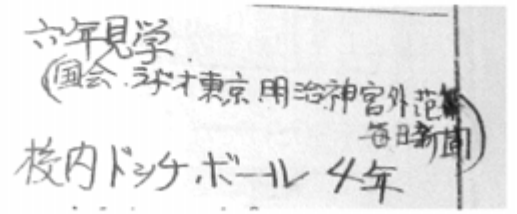


左：昭和３(1928)年６月26日の記事
右：昭和19(1944)年１月９日の記事

4、昭和28(1953)年11月13日　福岡小学校日誌

昭和22（1947）年に小学校６年・中学校３年が義務教育となり、福岡小学校と福岡中学校が開校しました。

海外引揚者などで児童数も増え、教室不足となり、昭和25～27年度は旧陸軍造兵廠の敷地内に分教場を設け、３～５年生が通いました。昭和28年４月には増築校舎の落成式も行われ、全校児童（1,187人）が同じ校舎で学べるようになりました。この年は、春と秋に運動会、学芸会、遠足、社会科見学、写生大会、ドッジボール大会、映画教室、書き初め展覧会、６年生修学旅行などの行事が行われました。



昭和28(1953)年11月13日の記事

６年生は、国会・ラジオ東京・明治神宮外苑・毎日新聞社への見学、４年生は校内ドッジボール（11～13日実施）。

「旭黌（あさひこう）」の額と笹田默介

特別展「子どもの学び」の展示資料の中に、旭学校（市立大井小学校の前身）の玄関に掲げられていた額があります。この額に「旭黌」と揮毫をした笹田默介は、山口県出身で、政府の官僚として明治４（1871）年埼玉県に赴任し、同６年埼玉県師範学校長として県の近代教育の基礎作りに尽力した人物です。さらに明治19（1886）年には県令（県知事に相当します）を補佐する書記官に進み、同23年熊本県の書記官に転じるまでの間、白根多助・吉田清英の二代にわたり県令を補佐し、県政の近代化に寄与しました。

どのような経緯で、笹田默介がこの額に揮毫をしたのかは、詳しい記録がないため不明ですが、埼玉県師範学校長時代に、旭学校の関係者と何らかのつながりができ、そのことによって彼に揮毫が依頼されたのではないか、と思われます。笹田默介は、大正14（1925）年に没し、東京・上野の谷中霊園に葬られました。彼が仕えた白根多助の墓所近くに今は静かに眠っています。ちなみに「黌」は学校を意味する字です。

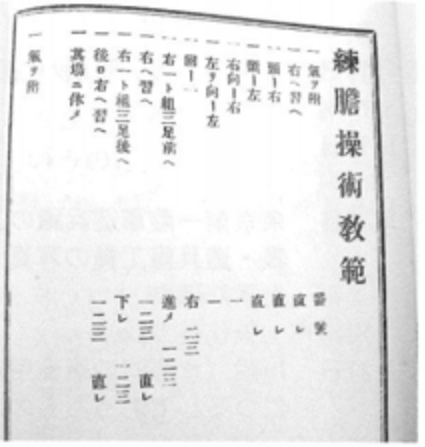
「旭黌の額」

福田屋十代当主星野仙蔵と剣道・教育

新河岸川舟運で栄えた船問屋福田屋の十代目当主・星野仙蔵＜明治４～大正６（1871～1917）年＞は、剣道の達人といわれています。神道無念流の根岸新五郎、直心影流の間中龍吉、小野一刀流の高野佐三郎などに弟子入りして学び、明治26（1893）年には自宅に剣道場「福岡明信館」を開き、100人をこえる入門者に教えました。

当時の学校教育では、武道は「遊戯」としてみられ、授業にとり入れることは認めていませんでした。明治37（1904）年に衆議院議員となった仙蔵は、剣道が中等教育の正科になるよう働きかけ、議会の場で主張しました。その一方で仙蔵は、従来の剣法を学校の体操に応用し、号令一つで一斉に動く練習も、個人での練習もできるような「練胆操術」という剣道修行法もあみだしました。こうした努力が実り、明治44（1911）年に、「中学校令施行規則」が改正され、体操に撃剣（剣道）及び柔術（柔道）を加えてもいいことになりました。

さらに大日本武徳会（明治28年設立）でも武道全般の近代化をめざし、仙蔵も委員の一人として剣道の各流派を統一した新しい「剣術形」の作成にとりくみました。大正元（1912）年に「大日本帝国剣道形」が完成（戦後「日本剣道形」に改称）し、剣道の原型ができあがっていったのです。


練胆操術教範

星野仙蔵著「練胆操術（れんたんそうじゅつ）」の一部分

ふじみ野市の両資料館への資料の寄贈

平成24年11月から平成25年10月まで次の方々より、各種の文化財資料を寄贈していただきました。紙上をもって厚くお礼申し上げます。

市立上福岡歴史民俗資料館分

平成24年

11月25日　韓国の手ぼうき
　小川町　高木文夫氏
12月27日　脇差
　市内　田中ミサノ氏

平成25年

1月18日　脇差・鞘
　市内　鈴木　功氏
1月31日　百円札・五百円札・記念硬貨ほか
　市内　加賀田曰子氏
2月1日　人形・屏風（ひな人形用）
　川越市　倉林佐代子氏
2月24日　ドロメンチ
　市内　吉野益雄氏
3月18日　半てん（上福岡特産座敷箒製造卸永倉商店）
　市内　永倉一男氏
4月5日　ヤマドリの剥製・クワ（木製）
　市内　松竹勝彦氏
4月21日　玩具（ミニカー）ほか
　市内　島田　茂氏
5月3日　須恵器（坩：実報寺かし谷塚穴口出土）
　市内　杉山輝子氏
5月5日　すりこぎ
　市内　原田市男氏
5月8日・28日　荷船のコベリにつかった霜よけ・銭箱・酒入れ・手桶・龍吐水・猫足膳・股引・取引のはがき・文書類ほか
　川越市　大河内啓一氏
6月11日　釜・やかん・映画パンフレットほか
　市内　小林光夫氏
7月12日　日本人形
　市内　堀口洋子氏
7月30日　東京第一陸軍造兵廠の工員手帳と給料表・造兵廠工員の写真・国民服（夏用上下）ほか
　川越市　矢作信芳氏
9月27日　川船（水害時の避難用として納屋の中につるしてあったもの）
　志木市　細田武夫氏
10月18日　大皿・刀
　市内　原田繁子氏

市立大井郷土資料館分

平成25年

1月5日　着物ほか
　市内　比嘉洋子氏
1月23日　蓄音機・レコード・オルガンほか
　市内　大塚　進氏
2月22日　ピアニカほか小学校学用品
　市内　富田千佳氏
4月12日　台秤
　市内　安野儀雄氏
6月30日　蚊帳・黒電話ほか
　市内　有住教保氏
8月21日　浅間神社提灯
　市内　嶋田福治氏
11月7日　苗間薬師堂什物・葬礼用具ほか
　市内　苗間薬師堂

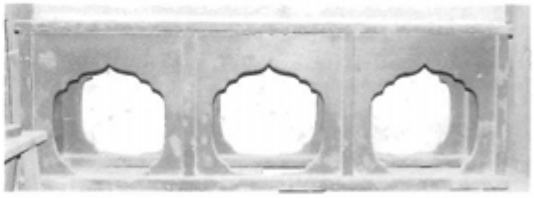
寄贈資料の紹介

苗間薬師堂の須弥壇（しゅみだん）

この須弥壇は、嘉永2年（1849）に建てられたという苗間薬師堂の解体に伴い大井郷土資料館に寄贈されました。

この須弥壇の上には、本尊をまつる厨子（ずし）が安置されていました。黒塗りの羽目板の内側には、この壇が川越の三芳野天神社（現三芳野神社）を管理していた高松院（明治2年に廃寺）の旧蔵で、貞享4年（1687）に修理されたことが朱漆で記されています。

この須弥壇が薬師堂に移された経緯は、ほかに資料がないためわかりませんが、廃寺となった高松院の存在やつながりを示す貴重な資料といえましょう。



須弥壇（苗間薬師堂）